

えいらい

No.48

令和3年7月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／理事長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

コロナ時代の 今だから



副院長 伊勢田 徳宏

2019年末、中国武漢市から報告されたCOVID-19は、人々がグローバルに行き来する時代を背景にあつという間に世界中に広まりました。翌年3月には、WHOが「パンデミック」との認識を表明し、今もなお収束の目途が立っておりません。

コロナ禍は、人が「つながり過ぎた時代」故に起こった災厄とされ、特に高齢者が常に感染リスクに晒され、医療が逼迫し、経済活動も制限され、外出、旅行もままならない生活が続いています。

『ワクチン』と言う1つの解決方法に頼る今、今後の見通しが立たないのが現実で、人々は多かれ少なかれストレスを抱えた状況です。

今だから、何が出来るのか？今だから今後のビジョンをどう持つべきなのか？が大切なことですが……すぐに答えが出るものでもありません。

その中で新しい人と人との関わり方が生まれています。ZOOMなどオンラインのコミュニケーションツールで結ぶ人間関係です。

今後COVID-19が収束しても、ZOOMは代表的なコミュニケーションツールの1つとして定着すると言われてます。

ただ、これもよくよく考えると肌で相手の状態を感じることは難しく、表面的な関係で終わる面があると思います。

実際、一部医療現場でもリモート診

療が導入されています。そうすると、微妙な人の感覚を察知出来ないのではないかという懸念もあります。

ストレスを抱えた中で、人に対して余裕を持って接することも出来ず、己の主張のみを掲げて居たのでは、何も進捗は生まれてこないと思います。

今だから、倫理的行動をとることが大切だ、と言われる。人が非倫理的行動をとる原因はなにか？それは、恐怖であると言われています。

ビジネスにおいて非倫理的行動をとるのは、競争に負ける恐怖、収入を失う恐怖から自己を守るためである。

しかし、非倫理的行動や方法では持続性が無いことを指摘されます。人として、倫理的行動をとる事は非常にハードルが高いもので、それなりの自分を戒める強い気持ちが必要とされます。

ストレスフルの今、ゆっくり生きていくことや、人とのつながりを再考するときなのでしょう。その中で、非常にいい言葉があると思います。「ありがとう」です。

些細なことでも感謝する心。感謝された人も幸せな気持ちになり、もっと人のために！と思うようになるでしょう。感謝した側も、今度は私が人のために、と思うようになると思います。

コロナ時代の今だからこそ、この、人と人とのつながりの基本が大切なのではないのでしょうか。

撮影：臨床検査室／赤松 紀代（面河渓谷）